

H26.12.26

奇跡ではない釜石の軌跡 & 滝沢東の復興教育



- 3月11日の午後、ぼく達が遊ぼうとしていた時に地震が起き、ぼく達はあわててしまいました。友達の一人はすごくパニックっていました。もう一人の友達が、「今は帰らないで、まず避難所に行こう。」と言いました。近くの避難所に行きました。避難してすぐに津波がきました。その友達が、もし、家に帰っていたら、その友達は間違いなく死んでいたと思います。それからぼく達は薬師公園に行き、津波の様子を見ました。それは、もう、地獄のようなありさまでした。
- 海を見ていたら、津波が見えて、家が心配になって家を見ていました。防波堤を越えた波が白い線のように押し寄せてきて、家や車をのみこんでいました。ぼくの家ものみこまれてしまいました。その時、ぼくは、これからどうやって生きていくのかがわからなくなって、涙が止まりませんでした。
- 3日目によく配給が行われました。おにぎり1個をもらいました。夕々のご飯を食べることができてうれしかったです。
- 数日後、学校のみんなも無事だとわかって、とてもうれしかったし、すごいと思いました。
- 家に帰り、布団に入ると、幸せを感じました。ふだんあたり前のことが一番幸せなんだと思いました。
- 学校が始まって学校に行くと、みんな無事だったと校長先生が言いました。それを聞いた時、うれしかったです。そして、自分が死ななかつたのは、学校でやっているひなん訓練のおかげだと思いました。
- 私は、絆、命、家族、友情の大切さに気づきました。これからも、上を向いて歩こうと思いました。
- 友達がいてくれたから笑顔でいられるんだと思いました。
- 学校が始まつて、友達と遊ぶのがすごく楽しかったです。つなみはすごくこわいと思いました。

滝沢市立滝沢東小学校 校長 加藤孔子

平成23年(2011年)3月11日(金)

午後2時46分 釜石小学校は…



巨大地震

- 全校児童数 184名
- 3月11日(金)
午後1時完全下校
- 家・友達の家
- 公園で遊び
- まだ下校途中
- 海で魚つり!

3月12日(土)

町中の様子 歩くところがない!

午後3時21分
大津波!

子ども達は?!

どうか、みんな生き
いてくれますように!

- 184人の子ども達はどこにいるだろうか?生きているだろうか?
- 先生たちは泥の中、がれきをこえて、子ども達をさがしに行く。
- 3月12日(土)1日で 174名まで確認 あと10人がみつからない。

3月13日(日)

午後3時2分 184名全員無事の確認!

奇跡だ!

「奇跡ではありません。」

「ぼくたちは学校で習ったことをそのまま実行ただけです。」

太津波からどうやって生き抜いたか?

- 魚釣りグループ
- 友達と遊んでいたグループ
- 家で遊んでいた子

奇跡ではない釜石の軌跡

釜石小学校184人の命を救ったものは何か?

- ☆ ぼくわたしの津波防災マップ
- ☆ 下校時津波避難訓練
- ☆ 防災授業
- ☆ 津波てんでんこ
- ☆ 心のひきだし
- ☆ 絆

津波てんでんこ

三陸地方に伝わる古くからの言い伝え
「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」
「自分の命は自分で守れ。」

生きる！

楽しい学校をつくる！ あたり前をあたり前に！



100年に1回の震災、皆さんも滝沢で停電とか大きな揺れとか経験しましたね。私たちは100年に1回の瞬間を体験して選ばれたんです。多くの方が亡くなり、いまだに行方不明の人もいる。私たちは生きているんです。だから、勉強してね。たくさん勉強して何か役に立つ人になってね。

小中連携ジョイントあいさつ運動

釜石 宝来館 女将 岩崎さんに学ぶ（5年）

かかわる！

釜石 サンフィッシュで質問



釜石・山田の海産物を地域で販売

つなげる！

マイマップ 地域安全確認集会



レベル2下校訓練



学習発表会『いなむらの火』



火山の実験 アイスクリームにメイプルシロップ



岩手山 烤き走り



学習発表会『グスクボドリの伝記』

～未来をつくる伴・わたしたちの震災復興～**忘れない・伝える・つなげる！****とどけ！ わたしたちの思い！ 緑のバトン運動**

滝沢で桜の苗木を育てる



山田町を見学



船越小学校に植樹

6年1組 滝沢香奈
船越小学校の皆さん、滝沢東小学校の6年生です。

去年の8月に山田町に来て、船越小学校の皆さんや、地域の皆さんがやさしく笑顔でせっしてくれて、とてもうれしかったです。

今日は、私達が約9ヵ月間、大切に育ててきた桜の苗木を植えにきました。

最初は、本当に20本、植えに行けるのだろうか。枯れはしないだろうか、私達が育てられるだろうかなど心配していましたが、ぶじにすべて持ってくることができました。今は細い苗木ですが、山田町の復興とともに、この苗木もだんだん太くなり、立派な桜となってくれればと思います。

この桜を見たら、私達のことを思い出して下さい。そして、これからも頑張ってください。私達も頑張ります。

船越小学校は、震災前の土地を10m嵩上げしたところに新しい校舎と校庭が完成しました。

私達の苗木は、校庭の法面で、海拔18mの地点に植えました。船越小学校の佐々木茂人校長先生が、「皆さんのが桜を植えた場所は、震災の時、津波がここまできたというところです。みんなさんの桜には、後世の人に、津波がここまで来たと伝えるメッセージが込められているのです。」と教えてくださいました。

山田の海へ！東小光太鼓！

鎮魂・復興の祈りをこめて

植樹の

後、山田町役場前で、海に向かって12代目東小光太鼓を演奏しました。お客さんはいません。海に向かっての「鎮魂・復興の祈り」をこめた演奏でした。



児童作文から

震災体験

5年 O. A

私は、3月11日2時46分の東日本大震災の時、家にいました。SYさんとゲームをして遊んでいました。

地震がきたとたん、ガタガタとゆれて、自分がこけてしまいそうになりました。机のところで遊んでいたので、机の上の物と近くにあった本棚の本と机の中の物とかがガラガラ落ちてきました。当たって痛かったです。その時、先生方の言っていたこと「地震がきた時は、机の下に入りなさい。」という言葉を思い出しました。

急いで、机が2つあったから、ちゃんと机の下に入りました。そのおかげで机をしませんでした。地震がおさまったら、すぐにお父さんが来て、「逃げろ。」と言われて、ひなん訓練でやった通りにひなん道路に逃げました。

ていぼうがあったおかげで、40分くらいたってから津波がきました。私は、地震から津波の間の40分間とてもこわかったです。なかなかお父さんが、ひなん道路に来ないです。家の方向をよく見ていると、お父さんが、ひなん道路と旧二中とさいわいいろを行ったり来たりして、3台の車を置きに行っていたんです。ぎりぎり海岸で、水が少し道路の所まで来ているというところでお父さんが帰ってきました。嬉しかったです。

でも、お母さんには会えてませんでした。遊んでいる時から買い物に行って、ちゃんと逃げていたか心配だったけど、絶対逃げていると信じて、仙寿院に逃げました。そしたら、お母さんがいました。ちゃんと逃げてくれて、とってもうれしかったです。

お兄ちゃんも中学校から帰ってきました。その後、旧二中に入って、甲子中に行って、学校再開の日、みんなに会えてとてもうれしかったです。釜小みんなが生きていたことがとてもすごいことだと思います。

保護者の話（上記のO.Aの母）

あの日、あの時2時46分私は買い物に出ていて、ベイシティホテルの下のローソンにいました。家には、4年生の娘が一人いたはずでした。すぐに浜町の家に戻ろうと思いました。が、「いや待てよ。自分がここから浜町まで戻ったら津波にのまれてしまうだろう。このまま自分は、ここから近い避難場所に行こう。これが学校の防災教育で聞いた津波でんてんこ。娘よ、お願ひだから逃げて。娘を信じよう。」と、家のある浜町には向かわなかつたのです。

実は、私はこれまで、恥ずかしい話ですが、「防災教育」「津波でんてんこ」耳にはしていましたが、真剣に考えていませんでした。それが、実際のあの時、「ああ、これが防災教育だ、津波でんてんこだと思いました。釜小学校で防災教育を取り組んでいてくれた、だから娘は娘で逃げてくれているだろう。自分も津波でんてんこで行動しよう。」と思ったんです。ありがとうございました。

震災から50日間の記録から

3月17日（木）

学校の近くの電柱で工事…避難所である本校に電気をひいてくれた。6日ぶりに電気が通る！=パソコン、プリンターが使える！！石川先生にプリンター拡大印刷。文書を印刷して、各避難所に貼る。また、先生方の足の力。

先生方には、お知らせを伝えることと、児童の居場所の確認。

おしらせ№2の掲示

私は、歩いて教育センターに。掲示板がシープラザに変更になる。シープラザに貼りに行った。

「防災教育の成果ですよ」

シープラザで、6年の長谷川葵君のお父さん、お母さんに会った。

葵君はあの日、ビルの屋上で助けを待っていた兄弟である。お母さんの話によると、両親は仕事で不在。マンションの2階にいた葵と2年のえいし（弟）は、下校後、3階建のマンションの2階にいた。1階への浸水に気付いた。弟は「外へ逃げよう。」と訴えたが、葵君は「大人でも、膝まで50センチでも水が来れば流される。」と学校の授業で習ったから、マンションの屋上に避難することにした。水かさが増し、2人は壁につかまって耐えきった。そのつかまる場所も授業で習ったように、こういう場所だと流されると考え、安全な場所を選んでつかまつた。と言う。お父さん、お母さんともに「学校の防災教育のおかげです。」と話してくれた。学校に帰って担任先生方に話

【釜石小学校からの連絡】 釜石小学校の皆様へ&保護者の皆様へ

3月11日の悪夢のような東北地方太平洋沖地震から6日が過ぎました。

おかげさまで、3月13日までに釜石小学校児童184名の全員の無事を確認しました。子どもたちお家の方や地域の方と一緒に、あるいはまた一人でも無事に避難所に逃げて、お家の方が迎えに来てくれるのを待ちました。まさに「津波でんてんこ」でした。皆様のご協力に感謝いたします。

釜石小学校から次の4点の連絡をします。

- 1 3月18日（金）に予定していた卒業式は中止にします。
卒業生のみなさんへの卒業証書の交付については、震災の状況がもう少し落ち着いてから交付します。
- 2 3月24日（木）に予定していた運動式も中止にします。
- 3 4月7日（木）に予定していた入学式も当分の間見合わせです。
- 4 現在の避難所を移動する場合は、避難所の係の方に話すごと、学校（担当）にもお知らせください。

児童のみなさんは、それぞれの避難場所で、清掃活動やバケツリレーに参加するなど、自分のできることをして生活しています。

釜石小学校のみんなに会える日を楽しみにしています。

平成23年3月17日

釜石市立釜石小学校

校長 加藤 孔子

すと、先生方は目に涙を浮かべ、嬉しいね。と。

防災教育で学んだこと

教諭 室 明美（22年度2年生担任）

平成22年10月29日（金）、パソコン教室で2年生の地震・津波から命を守る学習、防災教育を行った。

一昨年度の防災教育では、担任の浦嶋先生が、着衣水泳のときに水の抵抗を感じさせたり、「避難の必要性を知る。(津波はどのようなものかを知り、すぐに避難しなければならないことを理解する。)」学習をしたりしていた。

防災の授業では、スマトラ沖地震の映像を見せ感想を聞いた後、以前の津波のとき、自分の家は被災していたのかを確認させ、防災マップに被災した場所に色を塗った。その後、自分の家近くの避難場所、友達の家近くの避難場所を確認していく。

昨年度の学習を受けて、今年は、「津波の特徴を知る学習」をした。

「50cmの津波だったら逃げられると思いますか?」との問いかけに対して、ほとんどの子が逃げられると予想していた。その後、50cmの津波の映像を子どもたちに見せた。

「津波の画像を見て、気づいたことは？」の問い合わせに対して、

○すごい速さだった。

○波が泥のようになっていた。

○背の高きぐらいの津波だった　○車も物も流される

という感想がかえってきた。その後、「稻村の火」の紙芝居を読み聞かせした

授業の最後には、昨年と同様に「津波注意報・警報がなったなら近くに避難場所に逃げる」ということをみんなで再確認した。

子どもたちの感想文に、「50cmの津波で家がぐちゃぐちゃになると、思わなかったです。人が流れされてかわいそうでした みんな無事でいてほしいです」と書かれた記録が残っていた。

学校の防災教育では、子どもたちの発達段階に合わせて、各学年が学級活動の時間を利用して学習している

それから、3・11の大津波。地震のとき、経験のない私でさえ津波が来そうだと思った。その後、職員室前のベランダから見える大津波。家、車、瓦礫、様々なものを巻き込んで逆流してくる様を見て、「街はいったい？なぜ今日、短縮授業だったんだろう・・・。」と、どうにもならない焦りと憤りを感じていた。

子どもたちは、逃げただろうか。りりかさんの家は海の前、下校してから家に着いているだろうか・・・前の警報のときは、お母さんと車で逃げていたからきっと・・・。みなみさんもひろと君も海の前・・・。釜石保育園には、お世話になった先生方、職員の子どもたちもいる。お昼寝中、逃げていますように・・・。考えたらきりがない。ひしむ、ひしむ逃げていますように・・・。

私にできることは、避難所でできることをして、折るしかなかつた。折るしか……

2日後、最後の聖也君、彩華さんの安否が確認され184人、全員の安否か確認された瞬間、みんな泣いた。奇跡が起こったと・・・。よく逃げきったと・・・。そして、「防災教育」の素晴らしさをしみじみ痛感した。市の取り組み、学校の取り組みに心から感謝した。そして、何より学んだことを素直に受け止め実行した子どもたちを誇らしいと思った。「50cmの津波が来ると人も流さると学習したから」と屋上に逃げて助かったえいし君、葵君兄弟のことを始め、みんな必死に逃げていた。市、家族・学校・地域、みんなの力で生き抜いたかけがえのない命の理由・・・を伝え続けていきたいと思う

